

<b>科目名</b>	<b>国語</b>	科目コード 40030
------------	-----------	----------------

<b>専攻名・学年</b>	<b>物質工学科 3年</b>	<b>担当教官</b>	<b>金田 啓子</b>		
<b>単位数</b>	<b>2単位・必履修</b>	<b>開講期間</b>	<b>通年</b>	<b>時間数</b>	<b>60時間</b>
				<b>内訳<sub>(時間)</sub></b>	講義(60), 演習() 実験(), その他()
<b>教科書</b>	精選現代文(東京書籍) 精選古典(東京書籍)以上2冊とも、2年次から継続使用				
<b>補助教材</b>	新訂総合国語便覧 (第一学習社) 担当者によるプリント				
<b>参考書</b>	授業中に随時指示する。				

<b>A 科目の概要</b>	
1・2 学年の学習からさらに進んで、より高度な内容の教材を扱い、総合的な国語力向上を図り、あわせてより深い人生観照の態度の獲得を目指す。古い時代の文章と、現代の文章とを讀解し、その内容や視点を比較することで、現代という時代の持つ問題点を理解し、自身の視野を広げていく姿勢がより重要なものとなる。	
<b>B 到達目標</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治から現代に至るまでの文章および古文・漢文の讀解を通して、人間のさまざまな思想や感性に触れ、現代文明のあり方を相対化する広い視野を獲得する。</li> <li>・国語表現に関する実践的能力を獲得する。</li> </ul>	
<b>C 長岡高専の学習・教育目標との対応</b>	(B)
<b>D 履修上の注意</b>	
授業で扱う教材については、事前に必ず通読し、語の読みや意味が不明な場合は調べておくこと。特に、古文・漢文は、あらかじめ音読の練習をしておくこと。授業で扱い教材にあわせて、国語辞典・古語辞典・漢和辞典を持参し、活用すること。また、1年次から引き続き使用している図説国語、授業の内容に応じて活用すること。	
<b>E 評価方法</b>	
年4回の試験を実施し、その結果を最も重視する。授業中に実施する小テストや提出物などを補助的な評価に用いる。発表形式による授業の場合は、発表の内容や授業中の発言など、授業への積極的な参加度を評価の補助として加味する。	

F 授業計画・内容		
週	内 容	備 考
1	授業の進め方について・現代文(評論)の読解(1)	
2	現代文(評論)の読解(2)	
3	現代文(評論)の読解(3)	
4	国語表現の実践(1)	
5	古文の読解・鑑賞(1)	
6	古文の読解・鑑賞(2)	
7	古文の読解・鑑賞(3)	
8	前期中間試験	
9	漢文の読解・鑑賞(1)	
10	漢文の読解・鑑賞(2)	
11	現代文(小説)の読解(1)	
12	現代文(小説)の読解(2)	
13	現代文(小説)の読解(3)	
14	国語表現の実践(2)	
15	前期末試験	
16	現代文(随想)の読解(1)	
17	現代文(随想)の読解(2)	
18	現代文(小説)の読解(4)	
19	現代文(小説)の読解(5)	
20	現代文(小説)の読解(6)	
21	国語表現の実践(3)	
22	古文の読解・鑑賞(4)	
23	古文の読解・鑑賞(5)	
24	後期中間試験	
25	現代文(評論)の読解(4)	
26	現代文(評論)の読解(5)	
27	現代文(評論)の読解(6)	
28	漢文の読解・鑑賞(3)	
29	漢文の読解・鑑賞(4)	
30	学年末試験	